

春闘前哨戦

第23回 JR京都駅ビル

「大階段駆け上がり大会」開催

春闘勝利への熱き思いで駆け上がった!!

JR
WEST
西労組
UNION
ニュース

No.6

(通算)No.542

2020.3.18

JR西労組ホームページ
(http://www.jrw-union.gr.jp)

西日本旅客鉄道労働組合

本部 530-0012 大阪府北区芝田二丁目一十八番九号

TEL 06-6375-1986 (大阪ビル9F)
TEL 06-6375-1987 (大阪ビル1F)
FAX 06-6375-1984 (大阪ビル1F)
JRW 大阪ビル1F 一五五〇
●発行責任者/上田村良
●編集責任者/石田原良
●編集責任者/石田原良

女性の部 1位
和田 麻希 選手
(2020)
記録:24秒45

個人総合の部 1位
佐々木 竜一 選手
(上昇気竜)
記録:20秒33

45歳以上の部 1位
洪川 操 選手
(サンマッハスポーツ)
記録:23秒04

開会宣言を行なう鶴石青女委員長

上村委員長による
主催者代表挨拶

選手宣誓はオーシャンアロー
(和歌山地本)の香山・北村さん

MCは、KBS京都
梶原・岩田アナウンサー

京都障害者スポーツ振興会に
チャリティー基金を贈呈

協力会社代表
京都駅ビル開発(株)
福山社長挨拶

閉会宣言と乾杯を行う
白壁副委員長

総合優勝「2020」に
贈られた
「紀州勝浦産
・生まぐろ」
記録:1分33秒23

今年も色々な
パフォーマンスチームが
楽しませてくれた
写真は特別レースでの
チーム明智光秀(左)と
チーム細川軍(右)

天まで翔ける、春よ来い!

2020春闘の前哨戦として、2月22日(土)、KBS京都主催「JR西労組共催のもと、第23回JR京都駅ビル大階段駆け上がり大会が今年も盛大に開催された。

当日3チームの出場辞退が出たが、77チーム308名と特別レース4チームを含めて81チーム324名が171段高低差35メートル・全長70メートルの大階段で健脚を競い合った。ゲストにはタレントの森脇健児さんが招かれ、大会を盛り上げた。(JR西労組、グループ労組各チームの順位は別掲参照)

JR京都駅ビル大階段駆け上がり大会は、1997年9月に現在の京都駅ビルが誕生した際、その大きな特徴である大階段を何かに活用できないかとのJR西労組の提案により、実現に向け検討が開始された。1995年に発生した阪神・淡路大震災以降の日本の停滞から脱却するため、京都から元気を出そう!という掛け声のもと、京都の一番の開散期である2月に開催することや、寄付金を通じた障がい者スポーツの振興も目標にすることが具体的に検討され、1998年に第1回大会が開催。以降、毎年欠かさず春闘の前哨戦として開催され京都の冬の大きなイベントのひとつとなっている。今では京都府外からの参加希望者も多く、JR西労組が取り組む地域活性化運動の大きな役割をも果たしている。

当日は、新型コロナウイルス感染症が、世界各地に感染が広がる中、日本国内においても、2月16日に政府の専門家会議が「国内発生の初期段階」との認識を示したが、今後「国内感染期」に移行する可能性を踏まえ、感染拡大防止対応として出場者・応援者の発熱など体調不良を感じる方に自粛を促し、会場ではアルコール消毒キットの配置等の対策を行い開催された。

悪天候の中、京都地本と青年女性委員会メンバーが中心となり階段整備を行い、競技に参加したJR西労組・JR西日本連合の仲間達は、日頃の成果を存分に発揮し、春闘勝利に向けて力強く駆け上がった。JR西労組からは全3地本・総支部、グループ労組からも22単組からの出場があり、団体の部で「尼子かけあがり隊」(JR西日本商事労組)が16位、「ノーストップ・バス」(中国JRバス地方本部)は18位に入るなど、大会を大いに盛り上げた。

今年も、優勝した団体には、那智勝浦町観光協会から寄贈された生マグロ一本が贈呈され、会場を大いに賑わせた。また例年好評の肉まんや豚汁のチャリティー販売は「コロナウイルス感染防止対策として今年度は販売を見送り、支援金のみを募りチーム参加費と併せて、全て京都障がい者スポーツ振興会に寄贈された。

当日の様子は3月7日(土)18:00~KBS京都にて、約一時間にわたって放送された。
今回も大会の成功に尽力していただいた、京都地本や青年女性委員会のメンバーに改めて感謝の意を表するとともに、組合員全員の春闘勝利に向けた一層の団結を要請する!